



たてやま

# おらがんまつち

南総祭礼研究会

2015.9 No.28



# 山宮神社

## 豊房地区長田



深い緑におおわれた山宮神社近くの風景

年番制を行い交代で役を務めています。その他の行事としては、三月の「おびしゃ」、五月と八月の「道風」「夏風」という草払いを地区全体で行うなど、まとまりのある地区です。

現在は、東長田が60戸、西長田が70戸とほぼ同じ戸数で、東長田には山宮神社、西長田には諏訪神社が鎮座します。西長田の諏訪神社の祭礼は現在では行われておらず、長田地区最大の行事である八幡祭礼出祭を東西長田が一体となり盛大に行っています。東西それぞれに区長・総代・世話人・青年がいますが、

## 地域の紹介

南総文化ホールから白浜に向かう県道86号線。それと並行に流れる長田川を境に広がる東西に、東長田・西長田があります。長田の歴史は古く、東長田にある谷(やつ)遺跡は、日本で最初に祭祀遺跡として紹介され、弥生時代の土器なども出土しています。西長田にある千田城跡は、里見義豊の弟・長田義房の居城と伝えられ、長田川の名前の由来とも考えられます。また、現在の山宮神社のことを江戸時代までは長田神社と呼んでいたそうです。

## 自慢の神輿

神輿の製作年代は、安政六年(一八五九)八月吉日とされ、彫刻は明治二十年代に房州後藤流初代義光の手によって施されました。神輿全体に隙間なく嵌めこまれた分厚く精細で躍動的な彫刻がこの神輿を見事に際立たせています。四方の欄間に這う龍、柱隠しの昇龍に降龍、さらに他の神輿にはあまり見られない「力神像」が四本の柱の下にとりしりと置かれ御霊を守っています。また屋根上の露盤、小脇隠しや腰枘なども所狭しとばかりに多彩な彫刻で埋めつくされた、自慢の神輿です。

「やわたんまち」渡御ですべての道程を担いでいく時、鶴谷八幡宮入祭での一の鳥居から拝殿まで二直線に参道を駆け抜ける時、長田の氏子たちが最も誇りを感じ、長田の神輿が最も光り輝く瞬間がやってきます。



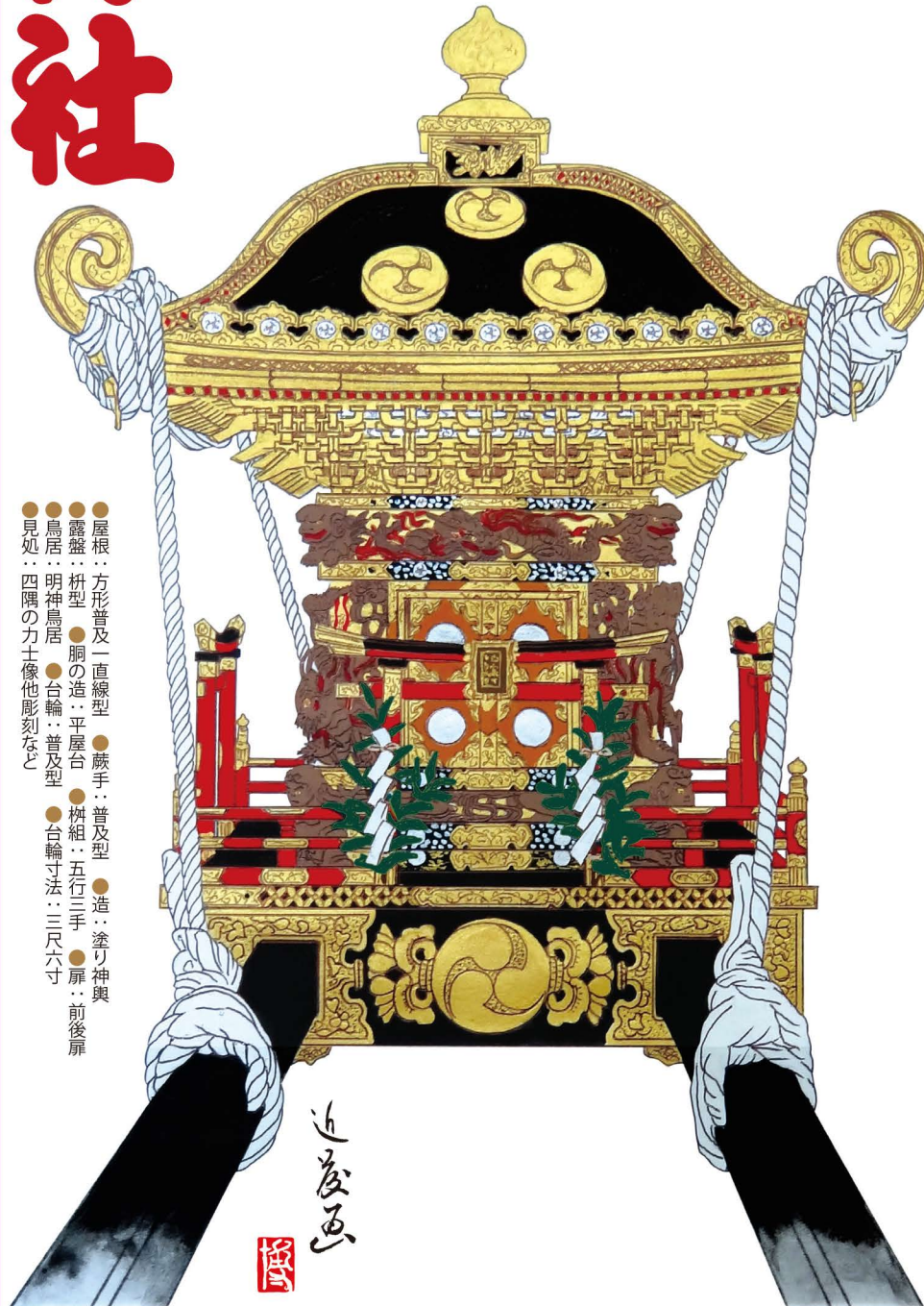
美しくバランスの取れた彫金と彫刻



柱隠しに踊る重厚な龍彫刻



柱下四隅に鎮座する力士像



近後画



- 屋根… 方形普及一直線型 ● 葎手… 普及型 ● 造… 塗り神輿
- 露盤… 枘型 ● 胴の造… 平屋台 ● 棟組… 五行三手 ● 扉… 前後扉
- 鳥居… 明神鳥居 ● 台輪… 普及型 ● 台輪寸法… 三尺六寸
- 見処… 四隅の力士像他彫刻など